



学校だより

11月号
横浜市桜台小学校
令和元年10月31日発行

スポーツの秋

校長 小宮 健

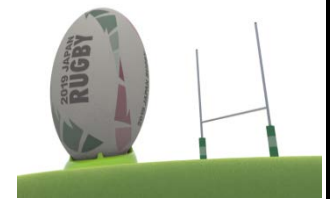
各地に甚大な被害をもたらした台風 19 号。2週後の記録的豪雨。災害の犠牲となられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災され今なお避難所での不便な生活が続いている皆様に心よりお見舞い申し上げます。

季節は移り変わり、秋本番。地域では岩崎中学校体育祭、幼稚園や保育園の運動会、そして 50 回を迎えた保土ヶ谷東部地区の運動会が盛大に開催されました。先日は三ツ沢公園陸上競技場にて第 69 回横浜市立小学校体育大会に 6 年生が出場し、競技や演技に全力で取り組みました。長縄とびでは両クラス共にベスト記録を出すことができ、みんなで喜びを分かち合っている姿は輝いていました。

また、日本で初めて開催されたラグビーのワールドカップで、強豪国から勝利を挙げベスト 8 となった日本代表チームの勇姿は、多くの人々を魅了しました。一方、バレーボールのワールドカップでは全日本男子チームの躍進に心を躍らせました。外国チームとの平均身長差を技術でカバーし、28 年ぶりに 4 位となったのは快挙といえます。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への期待に胸を膨らませた“スポーツの秋”となりました。

さて、ラグビーでは細かいルールの前に、「ラグビー憲章」として 5 つのコアバリューが掲げられ、選手やファンなど、ラグビーに関わる人がみんな次の 5 つの言葉を大切にしているそうです。

- 【規律】 みんなでつくった約束を守り、仲間を信じて助け合うこと
- 【品位】 フェアプレーを大切にし、誠実にふるまうこと
- 【尊重】 敵味方関係なく人を思いやり、大切にすること
- 【情熱】 どんなことにもひたむきに謙虚に、強い気持ちで取り組むこと
- 【結束】 国籍や言語、文化や習慣の違う仲間と一つになること



さまざまな国籍の選手が 1 つのチームとして一緒に戦い（ワンチーム・ワンハート）、対戦相手の選手が試合後に握手を交わし（ノーサイド）、ファンも敵味方に分かれずに座って観戦し、お互いのプレーに拍手を送りあう文化は、ラグビーの魅力の一つだと思います。選手も観客もこの 5 つの精神を大切にしているからこそ、相手チームの失敗を喜んだり、やじを飛ばしたりしません。

（「よこはまし市内報 10 月号」から一部引用）

この精神は、まさに義務教育の目的である「人格形成」に相通する要素といえるのではないのでしょうか。

来年度から全面実施される体育科の新学習指導要領には、改訂のポイントとして「する・みる・支える・知る」というスポーツへの多様なかわり方が明記され、生涯に渡ってスポーツに触れ、親しみ、楽しんでいくことの価値が示されています。本校の重点課題である「体力の向上」への取組を推進する際の指針にしていきたいと考えています。

皆様、今月も本校の教育活動にご理解ご支援のほどよろしくお願いいたします。